

酒井克彦編著監修『キャッチアップ デジタル情報社会の税務』ぎょうせい 2020年4月

編著者名 酒井 克彦／編著

判型 A5・320ページ

商品形態 単行本

雑誌コード

図書コード 5108591-00-000

8172365-00-000

ISBNコード 978-4-324-10785-0

発行年月 2020/04

販売価格 3,850円（税込み）

内容

これ1冊で税務当局のデジタル構想がわかる！

デジタル化による利便性向上策の“活用”&ビッグデータに基づく税務当局の情報収集や調査体制に“対応”する実務を示唆！！まさに税理士必読の1冊です。

令和2年はスマート税務行政が大きく進展

国税庁は平成29年6月、「税務行政の将来像」を公表し、ICTによるスマート税務行政を10年内に実現する方針を打ち出しました。特に令和2年は税務手続のICT化が一気に進展し、①4月開始の決算期における大法人・地方団体の電子申告義務化、②10月～12月の年末調整手続の電子化は多くの納税者を対象としています。

目次

序章Ⅰ デジタル情報化社会の税務

序章Ⅱ デジタルファースト法と租税法

第1章 電子申告・電子納税

Ⅰ 電子申告の現状と課題

Ⅱ 電子納税の現状と課題

Ⅲ 法定調書等の電子化

Ⅳ インボイス制度が進める税務の電子化

Ⅴ マイナンバー制度と税務

第2章 電子データと税務

Ⅰ 電子データ（帳簿書類）保存と税務

Ⅱ 電子データ（スキャナ）保存と税務

Ⅲ フィンテック時代の税理士業

第3章 ICT化と税務行政

- I ICTを活用した税務行政
- II ICTを活用した滞納整理
- III ICTを活用した納税者サービス
- IV 行政における情報管理・情報保護
- V AIの到来と税理士業務

第4章 デジタル情報社会の税理士業務と税務

編著者プロフィール

編著者

酒井 克彦（さかい・かつひこ）

国税庁課税部、長官官房、税務大学校教授等々を経て、国税庁を退官。国士舘大学教授を経て、中央大学法科大学院教授、（一社）アコード租税総合研究所所長と（一社）ファルクラム代表理事を兼務。

執筆者

菅原 英雄（すがはら・ひでお）税理士、中央大学商学部非常勤講師

高木 英樹（たかぎ・ひでき）税理士・行政書士

川股 修二（かわまた・しゅうじ）札幌学院大学法学部教授、北海学園大学ロースクール非常勤講師、あすか税理士法人代表社員税理士

芹澤 光春（せりざわ・みつはる）税理士・宅地建物取引士、東海税理士会税務研究所副所長

鈴木 涼介（すずき・りょうすけ）税理士、元個人情報保護委員会事務局上席政策調査員

龍 真一郎（りゅう・しんいちろう）税理士

坂本 真一郎（さかもと・しんいちろう）税理士

畑中 孝介（はたなか・たかゆき）税理士

泉 絢也（いずみ・じゅんや）千葉商科大学商経学部准教授、博士（会計学）

石川 緑（いしかわ・みどり）税理士

臼倉 真純（うすくら・ますみ）アコード租税総合研究所主任研究員

川田 剛（かわだ・ごう）大原大学院大学客員教授、税理士